



新年のご挨拶

~New year greetings~



熊本県森林組合連合会
代表理事会長

前 川 収



謹んで新年のご挨拶を申し上げます。皆様におかれましては、ご家族お揃いで健やかに、新たな年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

旧年中は、私共の業務運営に対しご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、終わりの見えないロシア・ウクライナ紛争や、混迷が深まる中東情勢が、世界の社会・経済に大きな影響を与えており、各国が物価高対策に迫られる状況となっています。

このため林業関係においても、国内の住宅着工数が減少し木材価格も下落傾向にあり、先が見通せない状況となっています。

このような中、昨年には、森林環境譲与税の配分が見直され、山間地の市町村に手厚く配分されるとともに、森林環境税の徴収も始まりました。このことは、脱炭素社会の実現に向け森林の持つ二酸化炭素の吸収・固定に向けた国民の期待が、以前にも増して大きくなり、改めて森林環境譲与税の使途に注目が集まることが予想されます。配分された譲与税を余すことなく有効に活用し、森林整備を進めていくためには、地域の実態を把握している森林組合系統による、更なる市町村への働き掛けが求められます。

また、森林の適切な管理による炭素吸収量を環境価値として売買し、森林整備に対する一助とするJ-クレジットの取り組みも進められています。クレジットを活用した持続的な森林経営の推進が期待されます。

加えて、政府において、花粉症発生源対策としてスギ人工林の2割減少を目指し、伐採・利用・再造林の加速化が進められています。令和6年度補正予算においても、花粉症対策予算が盛り込まれているところです。

我々森林組合系統は、このような流れを好循環とするため、地域の森林整備の担い手として、これらの取り組みを積極的に進めたいと考えています。

さらに、林業担い手の技術を評価する技能検定制度が創設され、本県において学科、実技試験が行われることになりました。林業担い手の地位の向上のため、技能検定制度を支援して参ります。

また、相変わらず林業労働災害が多発しており、昨年も県内で死亡事故が発生しました。林業は、全産業平均と比較して10倍の労働災害発生率があり、少しのミスで尊い命が失われる大きな災害に繋がります。労働災害は、本人はもとより、家族や職場、同僚に大きな影響を与えることとなります。林業労働災害防止対策は、役職員が一体となって取り組むことが大切であり、各々の立場で注意喚起を行って、事故が発生しない職場づくりをお願いします。

最後になりましたが、本年が皆様とご家族にとって豊かで実り多き一年となりますことをご祈念申し上げ、新年にあたってのご挨拶と致します。



熊本県農林水産部
部 長

千 田 真 寿

会員並びに森林組合の組合員の皆様に謹んで新年のお慶びを申し上げます。

皆様には日頃から、本県の森林・林業・木材産業施策の推進に当たりまして、格段のご支援とご協力をいただいておりますことに、深く感謝申し上げます。

さて、本県では昭和の時代、拡大造林により造成された人工林の多くが利用期を迎え、林業生産活動が活発化しています。また、昨年、政府が設置した花粉症に関する関係閣僚会議において、花粉症対策の全体像が示されたことを受け、スギ人工林の伐採と花粉の少ない苗木への植替えをより一層進めていくことなどが求められています。

一方、近年、豪雨災害の激甚化、頻発化や、2050カーボンニュートラルの実現への対応が求められる中、森林の持つ国土保全機能や、森林の二酸化炭素吸収量の確保に向けた取り組みに対する県民の期待が大きくなっているところです。

また、県北地域における半導体企業の進出に伴い、地下水取水量の増加が見込まれることから、特に白川中上流域エリアにおいては森林の水源涵養機能の発揮にも関心が寄せられています。

このような状況の中、間伐等による適切な森林整備や再造林等を通じ、森林の有する公益的機能を最

大限発揮させるとともに、林地保全に配慮した林業を推進し、「伐って、使って、植えて、育てる」という森林資源の循環利用を確立することがますます重要になってきていると認識しております。

本県におきましても、市町村との連携による森林経営管理制度の適切な運用のもと、森林環境譲与税等を活用しながら、間伐等の森林整備と花粉が少なく成長に優れた苗木による再造林を推進するとともに、保安林の整備や治山施設の整備による国土強化や木材の需要拡大と安定的な木材の流通促進に取り組んで参ります。また、これらの森林資源の循環利用を担う事業執行体制の確保と生産性の向上のため、森林を守り育てる担い手の確保・育成と森林管理等の各方面でのDX化を進めて参ります。

これらの施策を推進していくためにも、森林組合の担う役割はますます重要となって参ります。今後とも皆様方のご理解とご協力をよろしくお願い致します。

結びに、本年が皆様方にとって輝かしい年となりますよう、併せて、ますますのご健勝とご活躍を祈念いたしまして、年頭のご挨拶といたします。



『くらしと人権』 =気づこう、そして考えよう=



熊本県人権啓発
マスコットキャラクター
「コッコロ」



「人権」とは

人は誰でも自分らしく、そして幸せに生活するという基本的な権利を生まれたときから持っています。この権利を「人権」といいます。



「人権問題の解決」のためには

私たち一人ひとりが、相手の立場に立って考え、自分の言動に責任を持つことが重要です。

「熊本県では、結婚や就職の際の部落差別につながるような身元調査が条例で規制されています。」

農林中央金庫 福岡支店
支店長

久古谷 卓 治



令和7年の新春を迎え、森林組合の皆様にご挨拶を申し上げます。旧年中は弊庫の業務に格別のご高配を賜り、心より感謝申し上げます。

昨年は、国内外で様々な変動があった年でした。世界規模での気候変動が引き起こす異常気象が続き、日本国内では豪雨や台風、地震などの自然災害が多発しました。

また、ロシア・ウクライナ紛争やイスラエル・パレスチナ紛争は終わりが見えず、世界各国が物価対策に追われ景気にその反動が出始めている等、社会情勢、景気動向は先行きが見通せない状況です。

林業分野におきましては、金利上昇等に伴う住宅着工数の減少により木材単価は下落傾向にあります。一方、昨年から新たに「森林環境税」の徴収が始まり、脱炭素や災害防止の観点から森林整備の促進を後押しする動きが進展してきました。木材の安定供給や森林整備の担い手としての、森林組合系統に対する国民の期待感は一段と高まっていくこと

が予想されます。

私ども農林中央金庫では、森林組合系統の皆様に対しまして、金融、非金融の両面からサポートを実施しております。重点事項として取り組んでおります「森林組合系統による森林吸収系 Jークレジット創出」につきましては、皆様のご理解とご尽力のもと、九州内の一部森林組合においてプロジェクト登録やクレジット売買に至りました。森林吸収系の Jークレジットは、間伐や造林等の森林管理により増加する二酸化炭素吸収量を「クレジット」として認証し、二酸化炭素を削減したい企業等に販売できる国の制度です。この取り組みは、環境保全に繋がるだけでなく、再造林等の安定財源確保を通じた林業サイクルの循環や林業所得向上に資するものであるため、森林組合系統一体となって推進できればと考えております。

今後とも森林組合系統の発展に向けて取り組んで参りますので、引き続きのご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びにあたりまして、皆様の益々のご健勝とご多幸を祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。

たもちい・そりんの 木を植えたら森林保険に入ろう



森林保険は、あなたの森林が災害にあった時のための保険です。

お問い合わせは

JForest

熊本県森林組合連合会
森林整備推進課 森林保険課

熊本市東区戸島2丁目3-35
TEL 096-285-8688



全国森林組合連合会
代表理事長

中 崎 和 久



年頭に当たり、謹んで新年のお慶びを申し上げます。

旧年中は、弊会の業務運営につきまして格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年は、年初の「能登半島地震」に始まり、8月には日向灘で発生した地震により、はじめて「南海トラフ巨大地震注意」が発表される等、地震が相次いだ年でありました。震災以外にも集中豪雨等、全国各地で災害が頻発しており、被災された方々に衷心よりお見舞い申し上げます。弊社といたしましても、政府に所要の要請を行うと共に、今こそ「緑の国土強靱化」による防災・減災への取り組みを強化して参らなければならないと考えております。

こうした中、昨年4月から森林環境譲与税の配分が見直され、山間部の自治体に多く配分されることとなりました。全国の森林組合系統の皆様におかれましては、引き続き地元都道府県及び市町村と連携し、森林環境譲与税を余すことなくしっかりと活用して地域の森林整備等を進めていただきたくお願い申し上げます。

さて、政府においては花粉症対策として花粉の少ない森林への転換促進対策が推し進められており、森林組合系統はその担い手として事業に取り組んでいるところです。森林組合系統運動「JForestビジョン2030」においても、「伐って、使って、植えて、育てる」循環型林業の確立を掲げ、系統全体で主伐再造林に取り組むこととしており、花粉発生源対策の取り組みと合わせて引き続き推進していく所存です。

一方、昨今の少子高齢化等の影響を受け、森林整備等を担う人材の確保が全国的な課題となっております。弊社では、これまで林野庁補助事業「緑の雇用」事業の実施主体として、全国の森林組合をはじめとした林業経営体の人材確保・育成を支援して参りました。加えて、弊社が事務局を務める一般社団法人林業技能向上センターでは、林業の現場技

能者の技能向上による人材育成を図り、労働安全の確保、林業労働者の処遇改善や人材確保に資することを目的として、林業における技能検定制度の構築に取り組んできたところ、昨年8月に職業能力開発促進法施行規則等が改正され、技能検定職種に林業が追加されるとともに、技能検定試験が始動いたしました。

また、昨年9月にオーストリアで行われた世界伐木チャンピオンシップ（WLC）では、初めて日本人選手が総合でメダルを獲得するという嬉しいニュースがありました。今年も弊社が中心となり、第6回日本伐木チャンピオンシップ（JLC）の開催を予定しており、多くの選手が切磋琢磨し、更なる現場技能者の技術や地位の向上、安全対策の推進に資することを期待しております。

本年2025年は、国連決議に基づく「国際協同組合年」です。これは、2012年から二度目の宣言となり、SDGsの達成に向けた協同組合の取り組みが世界に認められた証であります。我々協同組合はこの期待に応えるべく、一層、SDGsの達成やカーボンニュートラル社会の実現等、社会課題の解決に向けた取り組みを「実践」し、広く「発信」して参らなければなりません。本年の「IYC2025国際協同組合年」を契機とし、森林組合系統の活動に対する社会の認知を高めるとともに、森林組合系統の更なる発展と「JForestビジョン2030」の実現を目指して参りましょう。

今後も、弊社では系統関係者及び関連団体とともに、人材の確保・育成、森林資源の循環利用、国産材利用促進等に向け、役職員一同精進する所存です。倍旧のご指導、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本年が皆様にとって幸多き一年となりますよう祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。

各種研修会の開催



当連合会では、会員の皆様のご要望を取り入れつつ、職員のスキルアップを図るため、各種研修等を実施いたしました。

森林組合初任者研修会

開催日：令和6年5月22日（水）

開催場所：熊本県林業会館 2F 会議室

対象者：森林組合に入組3年以内の者

講師：〈午前の部〉県森連職員

〈午後の部〉肥銀ビジネス教育株式会社

鶴田陽子 マナー講師

内容：午前中は、森林・林業の現状や森林組合系統組織並びに、コンプライアンス全般についての研修を行い、午後からはビジネスマナーに関する基礎知識とスキルの習得等について研修を行いました。グループワークなどを取り入れた5時間という長時間に渡る研修でしたが、参加者の皆さんから、「敬語やマナー、名刺を渡す時などは自分が合っているか不安な部分があったので、本日の研修で自信ができました。」や、「今まで知らなかったビジネスマナーなどを学びました。」などの声が聞かれました。



森林組合初任者フォローアップ研修会

開催日：令和6年8月22日（木）

開催場所：熊本県林業会館 2F 会議室

対象者：初任者研修を受けた者

講師：〈午前の部〉県森連職員・一般社団法人HR Japan 藤井 誠氏

〈午後の部〉肥銀ビジネス教育株式会社 鶴田陽子 マナー講師

内容：午前中は、当連合会の井野参事から、森林・林業・木材産業の現状と課題について説明の後、一般社団法人HR Japan 藤井 誠氏から、「企業と人権について」についての講義をWEBで聴講しました。午後からは、肥銀ビジネス教育の鶴田講師から入組してからこれまでの振り返りや、2～4年目に向けてのモチベーションアップに必要なこと、またグループ演習によるチームワークの大切さ等について講義していただきました。

受講者からは「自分の性格やモチベーションの上げ方、下がる理由を知ることが出来た。」「ペーパータワー作りを通して、PDCAについて学ぶことができた。」等の感想をいただきました。



森林組合中堅者向けスキルアップ研修会

開催日：令和6年9月3日（火）

開催場所：熊本県林業会館 2F 会議室

講師：肥銀ビジネス教育株式会社 鶴田 陽子 マナー講師

内容：肥銀ビジネス教育の鶴田講師から、「中堅者として備えておきたいメンターの役割」というテーマを中心に一日を通して講義していただきました。参加者の皆さんから、「アサーティブでの言葉の伝え方や、指示の出し方を学ぶことができました。今後も業務内で参考にしていきたいと思う。」「メンティーが思っていることをいつでも話せる雰囲気づくりを意識していきます!!」、「部下や後輩とのコミュニケーションは子育てにととてもよく似ていると思いました。」など様々な感想をいただきました。



森林組合参事（級）研修会

開催日：令和6年9月27日（金）

開催場所：熊本県林業会館 2F 会議室

講師：〈午前の部〉県森連職員
〈午後の部〉林野庁・日本森林技術協会・
全国改良普及協会・全森連

内容：午前中は、令和6年度全国総務・指導担当部課長会議で受けた内容の情報提供を行い、午後からは、林野庁・日本森林技術協会・全国改良普及協会よりお越しいたき「花粉の少ない森林への転換促進事業」「地域間・産業間連携労働力確保事業」について詳しくご説明いただいた後、事業内容について意見交換を行いました。また全森連からはリモートにより「林業分野における技能検定制度」についてご講話いただきました。



森林組合監事研修会

開催日：令和6年10月4日（金）

開催場所：グランメッセ熊本 2F 大会議室

対象者：森林組合の監事

講師：〈午前の部〉農林中央金庫 福岡支店 Jフォレスト班
次長大髭 義隆氏
県森連職員

〈午後の部〉全国森林組合連合会
組織部監査企画担当部長 岸田 慎介氏

内容：午前中は、農林中金より大髭次長にお越しいたき、コンプライアンス全般について講話をいただきました。その後、会員監査等についての研修を行い、午後からは、全森連の岸田部長より「監事の役割と監査の実務」についてご講話いただきました。
監事の皆様が組織の見守り役としての役割を再認識し、適切な運営と組合の更なる発展に寄与されることが期待されます。



森林組合役員研修会

開催日：令和6年11月25日（月）

開催場所：グランメッセ熊本 2F コンベンションホール

対象者：森林組合理事・監事

講師：〈午前の部〉参議院議員 宮崎 雅夫氏

農林中央金庫 福岡支店 Jフォレスト班 次長大髭 義隆氏

〈午後の部〉株式会社ランベックスジャパン 代表取締役社長 原田 実生氏

内容：午前中は、まず参議院議員 宮崎 雅夫氏より「林業を取り巻く情勢について」と題し、林業における現状と課題、森林の循環利用の実現に向けた森林・林業・木材産業政策の展開等についての講演があり、次に、農林中金の大髭 次長よりコンプライアンス全般についての研修を受け、改めてコンプライアンスの重要性について理解を深めました。

午後からは、株式会社ランベックスジャパンの原田社長から「木造建築物のこれから」と題し、自社の沿革からこれからの木材・プレカット業界の情勢などについて貴重な体験話を交えながらの講話をいただきました。



熊本県下森林組合原木市況

(令和6年12月)

スギ販売市況

長さ	末口径	直材 単価(円)	曲り材 単価(円)
3 m	16～18cm	15,100	11,400
4 m	10～13cm	12,100	10,000
4 m	14～22cm	15,500	10,500
4 m	24～28cm	15,000	10,400
6 m	18～22cm	21,500	17,200

ヒノキ販売市況

長さ	末口径	直材 単価(円)	曲り材 単価(円)
3 m	16～18cm	18,900	14,000
4 m	10～13cm	13,700	10,900
4 m	14～22cm	21,300	15,400
4 m	24～28cm	21,400	15,800
6 m	18～22cm	28,000	24,000

YSバイオ チェーンオイル 森林にやさしい チェンソー チェーン専用生分解性オイル



詳細はこちら



エコマーク認定番号
第04110008号

ヤナセ製油株式会社
内容量：200L・18L・4L×6

自然環境への配慮！
作業環境を守る！
優れた潤滑性能！！

= 生分解性とは =



バクテリア
酸素



オイルが地中に残らない！

※「生産」から「廃棄」にわたるライフサイクル全体を通して環境への負荷が少なく、環境保全に役立つと認められた商品につけられるラベルです。

お問い合わせは



熊本県森林組合連合会
事業部 購買係

熊本市東区戸島2丁目3-35
TEL 096-285-8688

第29回 熊本県木材利用優良施設コンクール

＝熊本県森林組合連合会賞＝ 『立野交流施設(立野駅)』受賞

このコンクールは、県産木材を利用した優れた木造大型施設等を顕彰することにより、県民の県産木材利用の意識の向上と需要拡大を図ることを目的に平成7年から毎年開催されています。

令和5年度の表彰式は、令和6年3月1日に熊本県庁地下大会議室において行われ、熊本県森林組合連合会賞を『立野交流施設(立野駅)』が受賞されました。



表彰式：令和6年3月1日 熊本県庁



＝選考のポイント＝

2016年熊本地震被災施設の再建である。敷地は立野火口瀬の斜面を含むが、コンクリート擁壁を用いて高低差を活用し、斜路歩行中やエレベーター乗降後の眺めなど、視点場を意識した楽しめるデザインとなっている。

主構造は鉄骨造だが可能な場所では木が使用され、吹き抜け、吹き放ちのコンコース、交流広場を木造屋根が気持ちよく覆っている。地域の「顔」となり、立野地区のコミュニティ、及び南阿蘇鉄道・JRの再生と活性化に寄与することが期待される。



所在地／阿蘇郡南阿蘇村大字立野1572-13
施 主／南阿蘇村
設 計／株式会社ジメント
施 工／吉永・橋本特定建設工事共同企業体

延べ床面積／1,260㎡
県産材使用量／84㎡
主な使用樹種／スギ、ヒノキ

その他の受賞者は以下のとおりでした。

〔熊本県賞〕

『青井の杜国宝記念館』
人吉市上青井町118

〔熊本県木材協会連合会賞〕

『阿蘇くまもと空港
新旅客ターミナルビル』
上益城郡益城町大字小谷1802-2

〔熊本県木材事業協同組合連合会賞〕

『E FM (エバーフィールド打ち合せ棟)』
上益城郡甲佐町府領892

〔くまもと県産材振興会賞〕

『災害公営住宅球磨村一勝地地区』
球磨郡球磨村大字一勝地丙251-1

〔賛助施設〕

『熊本県防災センター』
『熊本地震震災ミュージアム
体験・展示施設「KIOKU」』
『熊本県天草家畜保健衛生所』
『熊本県立かもと稲田支援学校高等部』



令和6年度 JForest 全国森林組合代表者大会

—「林業のグリーン成長」と「JForestビジョン2030」の
積極展開による森林資源の適切な管理・循環利用の推進—

全国森林組合連合会主催の令和6年度 JForest 全国森林組合代表者大会が10月16日、銀座プロッサム中央会館ホール(東京都中央区)で開催され、全国から約700名の森林組合関係者が参加しました。



大会風景



閉会挨拶：前川副会長

主催者挨拶として、中崎和久会長が冒頭挨拶にたち「年初に発生した能登半島地震や豪雨による被災地の復興を引き続き支えるとともに、全国的に異常気象が続く中、森林・林業の果たす国土保全や温暖化防止などの多面的機能をより一層発揮させていかなければなりません。また、国家検定である技能検定の職種に林業が追加され、年明けには初回の試験が予定されております。ぜひ、現場で働く多くの方々が受験できるよう、この機会を活かして森林・林業による『グリーン成長』を成し遂げたいと思います。そのためには今まで以上に政策面での支援が必要となるため、皆様の後押しをお願いいたします。」と支援・協力を要請



決議の実現に向けた「がんばろう」唱和

しました。

大会では、表彰に続いて、「森林整備のための財源確保」、「JForestビジョン2030の推進」についての意見表明を受けて、大会決議が採択され本大会が締めくくられました。

大会決議

1. カーボンニュートラル・国土強靱化に向けた森林整備・保全と適切な管理の推進
2. 人材の確保・育成と労働安全対策推進強化
3. 生産性向上と需要拡大による国産材の供給・利用促進等
4. 能登半島地震や大雨災害など激甚な災害からの復旧・復興
5. 林業及び山村振興等に必要な林業税制の改正

〔全国森林組合連合会会長表彰〕

～栄えある表彰を受けられた皆様に対し、心よりお祝い申し上げます～

大会では表彰行事が行われ、組合系統の発展に功績のあった方々が表彰されました。県内の表彰者は次のとおりです。

◇ 功労者表彰（組合役員）

「玉名森林組合」 西島文郎
「鹿本森林組合」 平井光臣
「水俣芦北森林組合」 林 賢二

◇ 功労者表彰（現場技能者）

「玉名森林組合」 大山隆志
「菊池森林組合」 家入 亘
「緑川森林組合」 尾崎正幸
「水俣芦北森林組合」 山口政義
「五木村森林組合」 大塚保則
「天草地域森林組合」 櫻田康也、畑島保昭
長元 清

◇ 功労者表彰（組合職員）

「鹿本森林組合」 田中博毅
「阿蘇森林組合」 佐藤祐治
「水俣芦北森林組合」 黒田博明
「上球磨森林組合」 浜崎俊一、瀬戸口君広
柳本哲雄

◇ 感謝表彰（退職者）

「くま中央森林組合」 犬童孝二
「多良木町森林組合」 久保田 つるみ

令和6年度

熊本県木材利用に関する勉強会の開催および国への要望活動

とき：令和6年10月16日(水)～17日(木) ところ：東京都千代田区(林野庁ほか)

令和6年度熊本県林業施策勉強会が実施され、本県から林業政治連盟の役職員と組合長が参加した。令和6年度の政府予算等に関する提案・要望書を林野庁の青山長官ほか熊本県選出の国会議員へそれぞれ手交し、予算概算要求の満額獲得に向けての要請を行った。また、翌日に、耐火木造FRウッドを使用した「神田明神文化交流館」と令和2年12月に新宿パークタワー内に開設した多摩産材など国産木材の活用に向けた情報発信の拠点「MOCTION（モクション）」を視察し、参加者から質疑応答が行われた。



要望活動（林野庁長官室にて）



要望書手交

国産木材の魅力発信拠点「MOCTION」



新 組 合 長 紹 介

この度、平井前組合長の後任として、理事会において代表理事組合長に就任いたしました。



鹿本森林組合
代表理事組合長
永田 健
ながた けん

管内の林業発展及び振興に寄与できるよう全力で臨んで参りますのでよろしくお願いいたします。

鹿本森林組合では、森林の適切な管理と保護を通じて、持続可能な林業の実践に取り組んでおり、森林の再生や植林活動も積極的に行い、将来の森林資源の確保に努めております。

地域の森林資源を守り、未来に繋げるためにも皆様のご協力とご支援を重ねてお願いいたします。

私は、昨年8月に代表理事組合長に就任しました下内泰臣と申します。よろしくお願いいたします。



五木村森林組合
代表理事組合長
下内 泰臣
しもむら やすおみ

林業を取り巻く情勢は依然として厳しく、特に森林整備員の減少が心配されます。五木村の広大な山林を整備していくにはかなりの人手が必要であり、県下で一番人口が少ない村ですから、地元で雇用を確保することは困難であります。

担い手を確保するために、森林整備員の処遇改善を図り、五木村の森林を未来につなげるために、誠心誠意取り組んでまいりますので、関係各位のご指導ご協力を賜りますようお願い申し上げます、就任の挨拶といたします。



国際協同組合年

協同組合はよりよい世界を築きます



「協同組合コンベンション」が開催されました！

令和6年12月16日、合志市のJA熊本教育センターにて、国連が宣言した2025年の「国際協同組合年」に向けて協同組合の役割を考える「協同組合コンベンション」が県協同組合間提携推進会議の主催により開催されました。熊本県内の生協やJAなどの役職員ら約80人が参加しました。

日本協同組合連携機構の比嘉政浩代表理事専務が、『協同組合のアイデンティティについて』と題し協同組合の目的や意義についての講演をされました。

グループ討議では、協同組合に対する認知度を高めていく絶好の機会と捉え、国際年に向けての取り組む具体例等を話し合い、この日のアイデアを参考に国際年の活動を検討していきます。



コンベンション風景

【国際年とは？】

国際年をご存じですか。国連は1957年を国際地球観測年と定めたことをスタートに、毎年何らかの「〇〇国際年」を設けています。これは世界に共通する重要テーマについて、各国や世界全体が1年間を通じて呼びかけや対策を行おうとするものです。

【2025年は国際協同組合年です】

こうした中で、2025年は国際協同組合年と定められ、2012年に続いて2回目です。SDGs（持続可能な開発目標）をもっと現実のものとするために、国連は協同組合を評価、重視し、期待を寄せています。また、国連と歩調を合わせて世界各国の政府や協同組合に、国際協同組合年を活用することを求めています。